保護者用ガイド：ケンタッキー州代替的総合学力評価：知っておくべき重要用語とQ&A集

2024 年 10 月確認済み

保護者用ガイド：*ケンタッキー州代替的総合学力評価 (Alternate Kentucky Summative Assessment (AKSA)) の目的*は、保護者が子供のために十分な情報を得た上で決定できるよう、ケンタッキー州代替的総合学力評価に関する重要な用語を説明し、質問にお答えすることです。

知っておくべき重要用語

適合化：指導や学力評価の際のアクセスを容易にするために行う、教材や手順に対する内容変更。適合化は、授業や測定対象の構成や意図を変えるものではありません。学力評価の適合化は、生徒が学力評価に参加できるようにし、生徒が何を知っているか、何ができるかを示す、有効な結果を出すことを目的としています。

個別変更：生徒の個々のニーズに合わせた内容変更。生徒のニーズを満たすために、既存の教材や指導方法を変更すること。例えば、ヘッドポインター、ボードメーカー（ジョンソン市長）のシンボル、写真、実物と対になったシンボル、実物、拡大写真、質感のある写真、上にあげられた写真、コントラストの高い色、協働的サインなどがあります。

適合行動：自立して生活し、日常生活を安全に送るために必要な行動。

入学・退学許可委員会 (Admissions and Release Committee (ARC))：特別な教育を必要とする児童の教育上の決定を行う個人のチーム。この委員会は、親、子供（適切な場合）、通常教育の教師、特別教育の教師、地区の代表者（校長、特別教育担当ディレクター、指導カウンセラーなど）、学力評価者、関連サービス提供者などで構成されています。

代替的達成基準：代替的達成基準は、学年レベルの達成基準とは複雑さが異なる成績の期待値を設定するものです。一般に、代替的達成基準は、州の教科内容基準に沿ったものでなければならず、一般的なカリキュラムの利用を促進し、最高の達成基準に関する専門家の判断を反映したものである必要があります。[34 C.F.R. § 200.1(d) 参照]

代替的学力評価目標：この目標は、選択されたケンタッキー州学力基準 (Kentucky Academic Standard (KAS)) に対する限度を示します。代替的学力評価目標によって、学力評価項目によって示されるものについて具体的な指針を示すことで、この基準の一部を削減することができます。(ケンタッキー州学力基準 - 代替的 KSA 2023)

代替的高校卒業資格：通常の高校卒業資格の要件を満たせない障害のある生徒に提供されます。代替的高校卒業資格の取得者は、代替的学力評価に参加し、代替的学習課程を修了します。代替的高校卒業資格は、通常の高校卒業資格と同等ではありません。

支援技術：生徒が発達し、有意義な学業、社会的関係、就労活動に参加するのを支援するために使用される道具や戦略。ローテクノロジー（道具などを使わないコミュニケーションシステム、手話など）から、スイッチインターフェイスを備えたコンピューターなどのハイテクノロジーまで、さまざまなものがあります。

達成度テスト：学力測定のイベントであって、これにより生徒に対しては、教師の指示に従い、段階を踏んで課題を完了するよう求められます。

補強的および代替的コミュニケーション (Augmentative and Alternative Communication (AAC))：表現言語（例えば、要求、質問の発声と応答、物事や出来事の説明、拒否の表明、およびテキスト読み上げによるコミュニケーション補助装置、絵やシンボルボードなどの音声発生装置）について生徒を補助する低レベル、中程度、または高度な技術システム。

コミュニケーション能力：生徒が知識を得、それを実証できるようなコミュニケーション・システムの使用。

コンテンツ目標：学力評価の焦点となる教科内容基準。ケンタッキー州代替的総合学力評価（AKSA）では、学習内容の目標は、読解、数学、理科、社会、作文の各学年の達成度テストによって定義されます。

最新データ：直近の 365 日以内に収集されたデータ。例えば、IEP 進捗モニタリングデータ、IEP 進捗報告書、教室ベースの学力評価、教室観察、ワークサンプル、機能的行動学力評価データ、移行学力評価、支援技術学力評価、および出席記録などがあります。

英語学習者 (English Learner (EL))：英語以外の言語を母国語とする生徒、または英語以外の言語がその人の英語力レベルに大きな影響を与えている環境に生まれた生徒。EL が英語を話したり、読んだり、書いたり、理 解したりすることが困難である場合、英語で指導が行われる教室での学習や、英語で実施される試験での成績に支障が生じることがあります。

すべての生徒の活躍に関する法律 (Every Student Succeeds Act (ESSA))：2015 年 12 月、米国議会は、就学前から 12 年生までの公教育を規定する主要な連邦法である初等中等教育法 (Elementary and Secondary Education Act (ESEA)) を再承認しました。すべての生徒の活躍に関する法律 (ESSA)と呼ばれるこの法律は、落ちこぼれ防止教育法（No Child Left Behind (NCLB)) に代わるものであり、州にさらなる権限を与え、説明責任に関するプロセスを州や地方がよりコントロールできるようにするという、長期的な方針を打ち出したものです。（米国教育省 ）

証拠：これは、参加基準を満たす、あるいは満たさない生徒の特性を特定するために使用される具体的な情報源を指します。

適合化超過：生徒のための総合学力評価で認められているものを超える適合化、内容変更、および支援技術。

これは、州が求める学力評価と説明責任に特別な集団を含めるプログラムで説明されており、ケンタッキー州行政規則第 703 条 5:070 で定められています。

広範な直接個別指導：個々の生徒のために考案され、その生徒に向けられた集中的な指導。この種の指導は、重度の認知障害を持つ生徒が、環境に適した知識や技能を習得するために必要です。著しい認知障害を持つ生徒については、複数の環境で知識や技能を応用するために、このような広範な学習が必要になる可能性が高くなります。

障害者教育法 (Individuals with Disabilities Education Act (IDEA))：1990 年に制定された連邦法で、1997 年および 2004 年に再承認されています。この法律は、能力に関係なく、すべての人が無償で適切な公教育 (free appropriate public education (FAPE)) を受けられるようにすることで、障害のある生徒の権利を保護することを目的としています。IDEA は、障害のある生徒へ平等なアクセスを与えるだけでなく、特別な教育サービスや手続き上の保護措置も提供するよう努めるものです。

個別教育プログラム (Individual Education Program (IEP))：障害を持つことが確認された児童の固有のニーズを満たすために書かれたもの。これは、プランに明記されたサービスが子供に提供されることを保証する法的拘束力のある契約です。

IEP 策定ガイダンスは、IEP の策定に関する説明と例を示すものです。

ケンタッキー州学力基準 (Kentucky Academic Standards (KAS))：ケンタッキー州のすべての生徒が、ケンタッキー州の高校を卒業するまでに学ぶべき最低限の基準を記したもの。この基準は、何を学ぶべきかを取り扱っていますが、学習経験をどのように設計するかや、どのような教材を使うべきかは取り扱っていません。この基準は、ケンタッキー州全土の生徒が共通の内容を学び、高いレベルで学習する機会を得るようにするものです。

ケンタッキー州代替的学力評価参加ガイドライン文書フォーム：このフォームは、生徒が代替的学力評価に参加するために満たさなければならない要件を明らかにするものです。これらの要件は、ARC が同意し、年次総会で再検討される必要があります。

学習進度表：通常の速度で学習が進む生徒が時間の経過と共にどのように学力を伸ばし、身につけていくかを説明したもの。学習進度表は、生徒が特定のスキルを習得したり、ある概念を理解したりする過程で、どの段階にあるのかを判断する際に、教師が使用する便利なツールになり得ます。

学習者特性一覧 (Learner Characteristics Inventory (LCI))：表現的コミュニケーション、受容的コミュニケーション、聴覚、視覚、運動、取り組み、出席、読解スキル、数学スキルなど、さまざまな分野における生徒一人ひとりの個性を教師が理解するための質問票。LCI には 2 つの主な目的、すなわち (1) 代替的学力評価に参加する学習者のさまざまな特徴を記述すること、および (2) 州内および州間で、これらの特徴のパターンがどの程度出現しているかを記述することがあります。

縦断的データ：長期にわたって収集・分析された 1 年以上前のデータ。データセットが縦断的であるとは、同じ被験者について同じ種類の情報を複数の時点で追跡記録している場合をいいます。 縦断的データの例としては、社会性発達履歴、統合学力評価報告書、診断的学力評価、州および地区全体の学力評価結果、適合行動学力評価尺度、進捗モニタリングデータ、機能的行動学力評価データ、移行学力評価、技術評価などがあります。

コミュニケーションの方法：言葉、絵、物、触覚的合図、補完的コミュニケーションまたは支援技術など、生徒が自分の考えを表現する主な方法。

内容変更：指導や学力評価の際に教材や手順を変更し、その学年レベルに期待される学習内容を変更すること。 指導中の内容変更は、生徒の理解やスキルを徐々に向上させるために、一時的なやり方として適切な場合があります。 学力評価の内容変更は、生徒の知識や技能の測定が無効になるので、避けるべきです。

落ちこぼれ防止教育法 (No Child Left Behind)：2002 年に成立した連邦法で、初等・中等学校に対し、より高い基準に対する測定可能な説明責任を課すことを趣旨とするものです。 NCLB は、 2014 年までに、学校内の生徒（特別支援教育を受けている生徒や恵まれない環境にある生徒を含みます）の 100%が、数学と読解において、州が設定した同じ基準に到達するよう求めるものです。 NCLB は、 2015 年に、すべての生徒の活躍に関する法律 (ESSA) に置換されました。

参加基準：この基準は、代替的学力評価の 4 つの参加基準を満たすために必要な生徒の特性に関する詳細を記載するものです。

広範な：学問的内容の分野や複数の環境（学校、家庭、地域社会など）にまたがって存在する状態。

特別にデザインされた指導 (Specially Designed Instruction (SDI))：児童の個々のニーズに対応し、カリキュラムを利用できるようにするために、指導の内容、方法、または実施方法を適合させ、児童が所定の教育基準を満たすことができるようにすること。

選択回答項目：生徒が答えを選択して回答するように構成された学力評価項目（例: 複数選択肢、または正誤回答方式）。

実質的なサポート：教師やその他の人（例えば、特別支援を必要とする生徒をサポートする教員、副教員、助手）によるサポート、および生徒の環境におけるさまざまな物質的サポートを含みます。 例えば、学力評価や学習のためにテキストを適合させることや、学習をサポートするために、最初の段階において幅広く補助することなどが挙げられます。

大幅に適合化された教材：大幅に適応適合化された教材には、障害のない同級生に対する指導や学力評価に使われる教材から、外観や内容を内容変更したさまざまな教室用教材やその他の教材が含まれます。 例としては、文の長さを大幅に短くしたり、数学で一致する数

字を特定する際に、盛り上がったドットを使ったり、手と手を重ねて数えたりすることなどが挙げられます。が含まれます。 例としては、文の長さを大幅に短くしたり、数学で一致する数字を特定する際に、盛り上がったドットを使ったり、手と手を重ねて数えたりすることなどが挙げられます。

移行達成記録 (Transition Attainment Record (TAR))：生徒の読解、数学、および科学的な能力を学力評価するチェックリスト。

よくある質問

1. **ケンタッキー州代替的総合学力評価 (AKSA) とは？**

   AKSA（旧称：Alternate K-PREP）は、最も重大な認知障害を持つ生徒を対象としています。このような障害がある場合、ケンタッキー州の州全体の学力評価に参加し達成度を証明するためには、別の手段が必要になることがあります。 代替的学力評価は、州の学力評価について、より深く個別変更や内容変更を行い、別の方法で参加できるようにすることによって、生徒のニーズに対応するためのものです。

   詳細説明：

   ケンタッキー州代替的総合学力評価のウェブページ

2. **評価対象の生徒**

   3 年生から 12 年生までの全生徒が、さまざまな学年レベルで、特定の基準に基づき学力が評価されます。 障害のある生徒の中には、通常のケンタッキー州総合学力評価 (KSA) に適合化を図ることなく参加でき生徒もいれば、適合化を図った上で参加する生徒もいます。 重大な認知障害があると認定され、ケンタッキー州代替的学力評価の参加ガイドラインを満たした生徒は、AKSA と呼ばれる代替的学力評価に参加します。

   詳細説明：

   代替的学力評価に参加する生徒について、各学年でどの教科がテストされるかについての説明は、ケンタッキー州代替的総合学力評価のウェブページに掲載されています。

3. **AKSA ではどの学年が学力評価されますか？**

   代替的学力評価には大きく分けて以下の 2 つの要素があります。

   - 達成度テスト：指定された課題や活動を完了した時点で、生徒の学力を測定します。生徒の学力評価は、以下の項目で行われます。
     - 読解 - 3 ～ 8 年生および 10 年生

- 数学 - 3 ～ 8 年生および 10 年生
- 科学 - 4 年生、7 年生、11 年生
- 社会 - 5 年生と 8 年生
- 作文 - 5 年生、8 年生、11 年生

- 移行達成記録は、移行に必要な学力に対する生徒の成績を測定するために、ARC が記入します。生徒の学力評価は、11 年生時に、読解力（英語と読解力を合わせたもの）、数学、および理科で行います。

4. 児童が代替的学力評価に参加するかどうかは誰が決めるのですか？

障害のある生徒の教育プログラムや就学先については、ARC が決定します。ARC はまた、障害のある生徒が州や地区の学力評価にどのように参加するかも決定します。また、生徒が全州学力検査に適合化を図って参加するのか、図らずに参加するのか、あるいは代替的学力評価で学力を評価する必要があるのかについても ARC が決定します。

5. ARC はどのように決定するのですか？

ARC は、ケンタッキー州代替的学力評価参加ガイドライン文書フォームを使用して、生徒に関する情報（その時点での成績レベルについての継続的な学習進捗データを含みます）を分析します。そのガイドラインには、具体的な学習の要素や特徴について記述している参加基準も盛り込まれています。ARC は、生徒が代替的学力評価に参加する資格があるかどうかを判断するうえで、ガイドラインの各基準について、「はい」という回答について協議の上同意し、必要な書類を提供しなければなりません。また ARC は、それぞれの記述に対して「はい」と答える根拠となる具体的なデータを有していなければならず、これには、統合心理教育報告書、適応行動学力評価尺度、カリキュラム学力評価、診断的学力評価、学習進度モニタリング、および生徒の作業内容が含まれますが、これらに限定されません。

6. ARC はいつ決定を下すのですか？

ARC は少なくとも年 1 回会議を開き、その生徒の個別教育プログラム (IEP) レビューおよび改訂することにより、その生徒の教育プログラムを検討し、その生徒がケンタッキー州全体の学力評価にどのように参加するかを決定します。ARC は、ケンタッキー州参加ガイドライン文書フォームを使用して、代替的学力評価への参加について毎年レビューし、再決定することとなっています。

7. **ARC が生徒を代替的学力評価に参加させる資格があると決定した時点で、その決定は確定するのですか？**

   ARC の時点における直近のデータに基づいて、最初の段階で、生徒が代替的学力評価に参加すると決定されることがあります。新しいデータが出てきたり、内容変更が生じた場合は、ARC が再度会議を開き、生徒が代替的学力評価に参加する資格を失ったと判断することがあります。ARC の会議は年に一度開催されるので、年毎にその判断を下すことができます。

8. **なぜ私の子供は、障害のない子供と同じ内容で学習しているのですか？ もし同じ内容で学習できるのなら、特別教育は必要なのでしょうか？**

   「すべての生徒の活躍に関する法律 (ESSA)は、すべての生徒に対して同じ学習内容と達成基準を求めていますが、最も重大な認知障害を持つ生徒については、代替的な学力基準を定めています」ESSA は、代替的学力評価が、学年レベルの教科内容基準に基づくよう求めています。(ESSA：障害のある生徒のための主要な規定、およびそれが意味するもの)

9. **なぜ私の子供は、障害の認定を受けていない生徒と同じ学年レベルの教科内容基準で学力評価されなければならないのですか？**

   米国には、すべての生徒の教育に対する学校の責任を定める連邦法が 2 つ、すなわち ESSA および障害者教育法 (IDEA 2004) があります。ESSA も IDEA も、すべての児童のための教科学習、および一般的なカリキュラムの利用について高い期待を寄せています。これは、すべての生徒が貴重な存在であり高いレベルで学べるはずであるという前提を設定するものです。最近の研究結果では、重大な認知障害を持つ生徒も学習できることが示されています。州の学力評価情報は、学校やプログラムの改善と共に、すべての生徒に最高の教育体験を提供することに利用されています。

   詳細説明：

   学年レベルの教科内容基準に基づいた指導は、生徒に対し、より伝統的な機能的スキル（生活スキル）を習得する機会と、様々な場面で活用できる概念を学ぶ機会を提供するものです。この 2 つの機会を組み合わせることで、有意義な学校生活を送ることができます。例えば、ある生徒が、データを分析し、グラフを作成し、そのデータやグラフを使って適切な選択をすることを求める基準で勉強しているとき、その生徒はおそらく次のことができるはずです。

   - データを収集するための調査を実施しながら、コミュニケーションや社会的スキル（スイッチや補完的コミュニケーションボードを含む）を高める。
   - グラフにデータを入力しながら、数の感覚を高める（1 対 1 の対応など）。

- データやグラフを使って選択する際に、情報に基づいた適切な意思決定能力を高める（例：どちらがより多く持っているか）。
- 仕事に役立ちそうなスキルを増やす（例：コンピューターでデータを入力する、スイッチを使ってデータを入力する、ショッピングモールで人々に対してアンケート調査をする）。

代替的学力評価に参加する生徒には、学習と自立に役立つ支援を利用することが許されています。このような支援においては、難易度を下げたり、絵や物を提供したり、支援技術の使用などを行うことがあります。

10. 私の子供が受けている個別教育プログラム (IEP) で、学校での学習内容が決まらないのですか？

IEP の目的は、障害のある児童が無償で適切な公教育（FAPE）を受けられるようにすることです。IEP は、子供の個別のニーズに対応するために必要な、特別にデザインされた指導 (specially designed instruction (SDI))、適合化または内容変更、および関連サービスを記述した計画書です。SDI とは、IDEA の定義によると、その児童に特有のニーズに対応するために、指導の内容、方法、または提供方法を適応させると共に、公的機関の管轄区域内のすべての子供に適用される教育基準をその児童が満たせるように、一般的なカリキュラムを利用できるようにするものです。(米国連邦規則集第 34 編 300.39 条) ケンタッキー州における教育基準はケンタッキー州学力基準 (KAS) です。このような内容基準に沿って日々の指導が教室内で行われるため、IEP が明確に定義する構成要素（現在の成績レベル、年間の目標と目的、ベンチマーク、適合化、内容変更など）が、適切な教育を確実に行うために必要になります。

詳細説明：

IEP は、生徒の教育プログラム全体となるのを意図したものではありません。それはむしろサポートプログラムであり、一般的なカリキュラムを確実に進めるために、生徒が利用する必要があるものです。IEP は、ARC のメンバーによる決定事項を記録するものとして、ARC によって作成されます。IEP は行動計画であり、そのプログラム内で特定されたリソースを約束するものです。IEP によって、生徒が一般的なカリキュラムの内容を学習する際に必要な特別教育と関連サービス、およびサポートが決まります。

11. 代替的学力評価によって、私の子供が受ける支援が制限されることはありますか？

教師は、カリキュラム内の必要なスキルを学ぶために必要な援助を、生徒に提供することになっています。しかし、その指導形式を時間の経過とともに変えて、生徒がより自立したレベルへと進み、学力評価の際に可能な限り独立して取り組めるようにする必要があります。

詳細説明：

学力評価の支援は、個々の生徒のニーズに基づいて行われるべきものです。生徒に提供される支援は、いかなる形でも、正解を示すものであってはなりません。

12. 私の子供は、代替的学力評価で内容変更を受けることができますか？

代替的学力評価により、生徒は、指導や学力評価の際にサポート（内容変更、個別変更、および支援技術）を利用することができます。このようなサポートを提供することで、生徒は、年齢に合った、興味深く、そしてやりがいのある内容を学ぶことができます。サポートによって、生徒に対して直接に正解が与えられる場合、内容変更は認められません。許容されるサポートの例としては、色分けを使って、生徒が緑から始めて赤で終わることを認識できるようにすることが挙げられます。許容されないサポートの例としては、正解を緑、不正解を赤で色分けすることが挙げられます。許容される内容変更に関する詳細は、州によって義務付けられている学力評価およびアカウンタビリティプログラムにおいて、特定の集団を排除しないためのプログラム (Inclusion of Special Populations In the State-Required Assessment and Accountability Program) ケンタッキー州行政規則第 703 編第 5:070 条に概説されています。

詳細説明：

州の一斉学力評価では、生徒は、指導や学力評価の際にもサポートを利用できます。州によって義務付けられているテストにおいて適合化が適切であることを正当化するためには、そのテストにおける適合化が、日常的な指導や授業での学力評価の一環として一貫して使用されていること、および「州によって義務付けられている学力評価およびアカウンタビリティプログラムにおいて、特定の集団を排除しないためのプログラム」（ケンタッキー州行政規則第 703 編第 5:070 条）によって定められているすべての追加要件を満たしていることが必要です。

13. 代替的学力評価を受ける生徒のための適合化はどのように決定されますか？

ARC は、個々の生徒のニーズに基づいて必要な適合化を決定しなければなりません。学力評価における適合化の目的は、児童が一般的なカリキュラムで学んだことを点数に反映させることです。適合化は、児童の障害に関連したものでなければならず、それを裏付ける評価データが必要です。これらは IEP に文書化され、通常の指導の一部として使用されている必要があります。適合化をテストのためだけに使用することはできません。IEP は、児童が一般的なカリキュラムを問題なく進めるために必要なスキルを身につけられるように作成されなければならないため、適合化は毎年決定されます。児童のスキルが向上するにつれて、特定の適合化への依存度が下がる可能性があります。

たとえば、障害によって学年レベルの教材を音読してもらう必要がある子どもは、時間の経過とともに読解力を身につけ、課題によっては読み手の使用を減らし、最後には読み手が不要になるレベルに至る場合があります。適合化は、指導や支援技術の使用に取って代わるものではありません。IEP を作成する際、ARC が、時間の経過とともに適合化の使用を減らす方法について話し合うことがあります。IEP には、州および地区全体のテストで子供が使用する適合化を説明する文言が盛り込まれます。

詳細説明：

州の学力評価で適合化を使用するための一般的な条件についての詳細は、ケンタッキー州代替的総合学力評価のウェブページをご覧ください。

14. 代替的学力評価に参加した場合、私の子供は通常の高校卒業資格を取得できますか？

ARC は、生徒が、実証済みの認知能力および適応行動があるが故に一般的な教育課程（最低卒業要件を含みます）を修了できなくなっているかを判断しなければなりません。これは、プログラムの内容変更や適合化があったとしても同様です。ARC は、ケンタッキー州代替的学力評価参加ガイドライン文書フォーム、心理教育統合報告書、学習者特性一覧 (Learner Characteristics Inventory (LCI))、生徒の作業、生徒の観察、およびその他の関連情報など、さまざまなデータや情報を用いてこの判定を行います。この判定が行われた場合、ARC は、生徒が通常の高校卒業資格を取得するための一般教育課程を修了できず、したがい、ケンタッキー州行政規則第 704 編第 3:305 条第 10 項に定められている代替的高校卒業資格を取得するための代替的課程を修了するものと判断しなければなりません。

詳細説明：

代替的学力評価に参加しても、IDEA の「学力評価への参加」（米国連邦規則集第 34 編 § 300.160 (d)(2)）に記載されている、最も重大な認知障害を持つ生徒が、通常の高校卒業資格の要件を満たそうとすることは妨げられません。

卒業要件に関する情報は、高等学校 卒業の最低要件ウェブページご覧ください。

15. 私の子供は、IEP に記載されている機能的スキル（生活スキル）にいつ取り組むのですか？

すべての教師は、すべての学習内容の実用的な応用に目を向けるべきです。これは特に、著しい認知障害を持つ生徒に当てはまります。実用的なスキルは教科指導に組み込むことができます。IEP スキルを教科指導の中で教えることができない場合、必要に応じてそのスキルを教える時間を確保する必要があります。12 年生で必要な

州の代替的学力評価を修了した生徒は、その後 21 歳まで生活スキルの習得に専念することができます。

詳細説明：

学年レベルの基準は、すべての生徒が小学校から中学校、そして高校へと進むにつれて一連のスキルが確実に身につくように策定されていますが、教師は、この基準に従い、カリキュラムに沿いながら生徒のニーズに応えるよう、指導内容や期待されることを個別に設定することができます。教師が指導や期待することを個別化することで、実用的なスキルや IEP スキルに重きを置くことができます。例えば、小学生が液体の計量について学ぶ場合、その生徒は調理や洗濯に使う液体の計量方法を学ぶことができます。また、中学校の授業でフィクションとノンフィクションを学ぶ場合、その生徒はノンフィクション教材（料理本、新聞など）とフィクション（テープに録音された小説）を識別することを学ぶことができます。さらに、高校生が化学反応を勉強する場合、どの家庭用化学物質を混ぜないようにすればよいか注意することができます。

16. 子供が 1 年以上その学年に留まる必要があると判断された場合はどうなりますか？

その生徒は、学校の記録として再びその学年に記録され、学年別の代替的学力評価に再び参加する必要があります。[ケンタッキー州行政規則第 703 編第 5:240 条、第 8 項 (3)]

詳細説明：

障害のある生徒の留年に関する詳細は、2003 年 8 月 19 日付の特別教育・リハビリテーションサービス局 (Office of Special Education and Rehabilitative Services) (OSERS) が発行した書簡に記載されています。

17. ケンタッキー州代替的学力評価の参加ガイドラインに関する詳しい情報はどこにありますか？

ケンタッキー州代替的学力評価の参加ガイドライン文書フォームに関する詳細は、ケンタッキー州代替的学力評価への参加決定に関する入学・退学許可委員会 (ARCs) のガイダンス文書に記載されており、この文書は参加ガイダンスのページに掲載されています。